



くまのみ通信

中谷外科病院の理念—患者様とともに歩む

-中谷外科病院広報誌-



第29号
2013年4月発行

発行元
医療法人吉備会
中谷外科病院
患者サービス向上委員会
委員長 中谷紳

〒706-0001
玉野市田井3-1-20
TEL 0863-31-2323
FAX 0863-31-8486

ホームページ
<http://www.nakatani-hosp.jp>

Eメール
Goiken@nakatani-hosp.jp

診療受付時間
月～金 9:00～12:00
15:30～18:30
土 9:00～12:00

<中谷外科病院の 基本方針>

I:常に患者様の立場に
立ち、行動する。

I:消化器内視鏡、大腸
肛門病の専門病院として
最新・最善の医療を提供
する。

I:多職種間によるチーム
医療の充実をはかる。

I:在宅復帰を支援し、
社会に開かれた地域
医療を行う。

I:職員同士の和を重視し、
思いやりのある医療
を実践する。

平成25年度を迎えて

中谷外科は昭和41年8月、岡山県南の玉野市田井に開設されました。当時小学校1年生だった私は、屋には近くの海水浴場で食べきれないほどアサリを採り、日が暮れると診療所の横に流れていた小川で、数え切れないほどの虫を追っていました。

あれから46年が経過し、日本の医療を取り巻く環境も当地も大きく様変わりしましたが、今私は生まれ育った故郷で、医療・福祉という人に奉仕するための仕事ができ、感謝の気持ちで日々を送っています。

当院は「患者様とともに歩む」を理念とし、常に患者様が主人公である医療機関です。消化器内視鏡、大腸肛門病の専門病院として患者様に安全・安心な、そして最新・最善の医療を提供できるよう努めており、平成25年3月には日本医療機能評価機構の病院機能評価(Ver.6)再認定を受けました。私は当院が「私(中谷)自身や私の家族がケガや病気をした時に、まずかかりたいと思える病院」であることが、とても大切なことだと思っています。

これから小規模病院の利点である軽いフットワークを生かして、患者様とご家族にきめ細かな心遣いをし、職員一同で温かい医療を提供して参ります。

本年度も皆様方のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

平成25年4月吉日 院長 中谷紳

当院のCT装置が新しくなりました



これまで、4列CTを使用しておりましたが、平成25年3月14日にコンパクト16列CT(Alexion)に更新いたしました。今回は16列ということもあり、より高画質な画像を得ることができます。さらに検査時間も短縮されたため、患者様の息止め時間も短くなります。さらにさらに、これまでは検査時の被ばくを減らしすぎると画質が落ちてしまうということがありましたが、このCT装置には最新被ばく低減ソフト「AIDR 3D」を搭載しており、被ばくを従来の1/10程度まで減らしてもこれまでと同じ画質を維持することができます。その他、疑問点やご不明な点等ございましたら医師または放射線技師にお尋ねください。
(放射線部 西田寛規)

病院機能評価Ver.6認定

当院は平成24年10月に日本医療機能評価機構の病院機能評価Ver.6を受審し、平成25年1月「認定証を交付いたします」との第1報をいただきました。今回の受審を通じ、前回(Ver.5)の受審)から5年間、病院機能改善のための努力を継続し、蓄積された当院の多くの宝に気づくと同時に、新たに取り組むべき課題もみつかりました。第3者の視点から客観的に評価される機能評価受審をチャンスととらえ、医療の質の改善・標準化へと導かれたことは病院の大きな財産となりました。またすべてのスタッフが職種を超え一丸となり取り組んでいる姿に、当院は「人材」に恵まれた病院であることを再認識し、今後も患者様のため、職員のために時代の変化に対応出来るより良い病院作りに励んで参りたいとの思いを強くいたしました。最後になりましたが、受審に際してご支援いただきました関係各位に厚く感謝申し上げます。
(事務長 中谷富江)



第6回院内研究発表会 (3月16日)

順番	部署	テーマ
1	事務部	年報について
2	院内感染委員会	日常の手洗いと手術的手洗い
3	看護部 助手	機能評価において助手が行ってきたこと アピール編
4	看護部 病棟Aチーム	家族の力を支える看護
5	医療安全委員会	転倒転落・インシデント分析を実施して
6	診療部	直腸扁平上皮癌の2例
7	看護部 病棟Bチーム	看護におけるコミュニケーションを考える
8	褥瘡・NST委員会	褥瘡に関するアンケートを行って(パート2)
9	看護部 外来	内視鏡における前処置の再検討
10	患者サービス委員会	くまのみ通信についてのアンケート結果



今回は各部門ごとに自らテーマを決め、それに沿った業務分析・取り組み活動、事例報告など、どの部門も大変興味深く、参考にしたい内容ばかりでした。また、その中に新たな発見もあり、充実した会となりました。この日のために限られた時間の中で準備や練習を重ねてきたため、発表会終了後には達成感に包まれ、より深い絆が生まれました。ここで立ち止まらず、次回開催に向け、新たなスタートを切り1歩ずつ進んでいきます。
(事務部 岡冨有紀)



Nakatani surgical hospital



東京旅行に行きました！

平成25年1月19～20日、26～27日の2班に分かれて東京へ職員旅行に行かせていただきました。東京湾での夜景を見ながらのクルージング。スカイツリーに昇ったりと楽しい思い出を作ることができました。また、他部署の職員と過ごすことにより、今まであまり関わりのなかった職員同士のコミュニケーションを図ることができ、有意義な旅行となりました。(看護部 大森瑠恵)



第8回 スタッフのひとりごと



「それがわかっていたら・・・」

昨年、私がリスクマネージャーの育成研修を受講していたころ、主人が職場で足の親指を骨折し、車を運転できないため、通勤には送迎が必要となっていました。研修を終え、小学2年の息子と二人で主人を迎えに行った帰りの車中でのことです。

私：「難しい研修だった。全くわからなかった。」

主人：「KYTって危険・予知・トレーニング(訓練)の略じゃろ？」

私：「あらそう。英語じゃなくて日本語の頭文字なんじゃな。」

夫婦でそんな会話をしていると息子が突然言い出しました。

息子：「なあなあ、かあちゃん。つくくん(主人の呼び名)もそれがわかっていたら足を怪我せんで済んだのにな。」

何気なく息子が言った一言が見事的に射っていたため、思わず吹き出してしまいました。「それがわかっていたら・・・」が危険予知であり、そのためのヒヤリハットです。4月から医療安全委員になりました。研修を受けたと言っても、先輩方のご指導を受けながら、これからも勉強していきます。よろしく願います。

看護師 大塚恵美

平成24年度 診療実績

当院に入院された患者様の件数を2012年4月から2013年3月の間、疾患別に集計したグラフです。患者様の疾患を国際疾病分類(ICD)にて集計しています。患者様がどのような疾患で入院されたのか気になるところですが、やはり『消化器系の疾患』が目立ちます。

大腸・肛門疾患、消化器内視鏡の専門病院ならではの専門性を活かし、最新・最善の医療を提供していたらと考えております。(事務部 伊藤弘司)

2012年度 疾患別 入院患者集計



- 1: 感染症および寄生虫症
- 2: 新生物
- 3: 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
- 4: 内分泌、栄養および代謝疾患
- 5: 精神および行動の障害
- 6: 神経系の疾患
- 8: 耳および乳様突起の疾患
- 9: 循環器系の疾患
- 10: 呼吸器系の疾患
- 11: **消化器系の疾患**
- 12: 皮膚および皮下組織の疾患
- 13: 筋骨格系および結合組織の疾患
- 14: 泌尿器系の疾患
- 17: 先天奇形、変形および染色体異常
- 18: 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- 19: 損傷、中毒およびその他の外因の影響
- 21: 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用

新入職員紹介



(看護師)
出宮 政幸

昨年12月に慈恵病院を退職していましたが、院長先生はじめ職員方々の温かい励ましのお言葉をいただき、4月1日より看護師として働かせていただいております。今まで経験していないことばかりでしたが、周りのスタッフに温かく見守っていただいています。微力ではありますが、患者様やスタッフに少しでも恩返しできるよう努力していきたいと思っております。

【あとがき】

今年1月発行のくまのみ通信に同封させていただきました「くまのみ通信についてのアンケート」にご協力いただきありがとうございますございました。

今回のくまのみ通信第29号は、皆様のご貴重なご意見を参考に、できる限りの改善をしてみました。今後とも中谷外科病院、そしてくまのみ通信をよろしく願っています。

